特 別
へ5
1534
9

15394
9

乾山集之下

九月九日

一　菊

芹　満粘

秋[illegible]　紅紫

[illegible]　冬紫

蘿　紅紫[illegible]

本賀　雲[illegible]

柳　[illegible]

崑山集秋部下

九月九日　菊

茸　澁鮎

秋時雨　紅葉

名木紅葉　色葉

蘿　紅葉鮒

木實　栗

柳　秋雲

1.534
90

雑秋

暮秋

崑山集巻第十一　秋部

九月九日

硯さへあたらし組の花やきくの　為

山の人く飲やけふの菊のさけ

下戸なれも菊酒とそやさかやき　元

菊酒をせんせんもおそのいし　義

そふくハ九曜の星の菊の花　紀

菊酒の下戸と上戸ハ淵瀬哉

さしかへす仙家の菊の酒
千代かぞふ盃んや仙遊菊の酒
名のみ也けふ菊酒ハ菊のつゆ
菊の酒ハ宮ちんめいのくすり

京　為義

ふんめくや㧾り色香九重菊の酒　宗佐

百歳やもゝせんもい葉の酒　未恒

まつかつくらくるよ菊の酒の香

菊酒ハ家も陶淵か酒の手　同所　友之

菊の酒のみくとくりの花雛ぶ　八木　良勝

さくらぬり徳田みるけ菊の酒　谷崎　正臣

長つきや下戸もちしせよ菊の酒　可水

鉢植九獄君そ十せんと菊の酒　宗成

云菊とふや葉の名也菊の酒　樋口　可之

いく年をもくく道りも菊の酒　世瀬　道知

名ふ敬や菊酒まんとくとくの香　政也

よき菊ハ輝く葉や花の酒　彦　元喜

菊の酒にゑふや目かハ花盛　柳井 清之
楊貴妃の菊酒にしやゑまん　吉田 信元
千代の菊ハ酒すけのつまみ哉　中村 舎義
九日とそ候やうな菊けふの菊　大谷 宗貞
治まれる御代の今日の菊賀哉　保成
菊ともにをりうる湯や能登　忠次
きく花さけもすまし浮上　閑
葉

われハ菊ちよあやかりいきてや菊の字
能登ハちらぬやたらぬもてあきの字
せんさいにさかる人あや菊の字
花咲ハさかりの菊にさきそへ
その菊のさかりや菊節字
さる紙にかまうてもかゝハ小菊
金銀の枝の露の菊か露
かけてさく人あまつ目貴の菊のえ

露掃もむしろ菊は蜂の肉
手酒にせよ猩々菊の花は露
林さくや志きさ三度は蘇草
志盛のさかりや蘇菲蘇芋
玉露に痛かる菊や泪ちる　筆
ねま露はそて涙香や菊の渕
猩々は菊や法は蟻やさゝ録
おもみいはし日やいきてはき蘇　ちよ

みなそこしやいちゐ菊は肉
菊は休宴とせん三之の盛に
露しるをとみるときくは檐家
常山の花やみたそて草合　に
菊一もと疎籬もありん白に
志らきくや浪のうすき蜂の肉
庵も年々主人の股や菊の渕
袖ちらへ退屈草や草の渕

正儀
完之
泰和
右居　貞利
右堺　未得
紀室

淵明のためか池ちれや菊の淵　中嶋　高次
花ぞたえてみつ水流むや菊の淵　松嶋　一治
鸕鷀のさそれの末の葉か淵　佐々木　修次
めし嫌そむさしてつゐに菊か潭　樋口　政知
淵霧し瀬戸掛ちつる菊か也　嶋　重紀
桂の菊ぞそだちさるや畠山　林慶
背丈ぞいちし當我菊さらい　一人
月光ひらきし菊と云也　[illegible]

當我菊やち時と志ん清切　筒井　宣安
當我菊は宿といふ子の子孫　水谷　政清
當我菊葉はおそむる秋風や　大鹿　海成
當我菊の花へ行のよりも　了安寺　文翁
當我菊ゑとひくいわさいさ公　濱嶋　正長
當我菊は生根の経や深みし　竹山　宣寧
小袖當我とりて菊ゐ花家　森谷　貞好
かうのみや大そそぎ菊の花乃秋　林　良知

花さしてみよかし床におきな草　粉川 宅之

一もとも人まれあやうき萩草　中村 吉成

菊見にもあやれかへり萩草　鷺 好楢

名ともつ花や貴賤の萩草　井上 正和

蝶の居に花や藪中此萩草　藪 吉尉

住吉此外の鍋取の萩草　室衆

嫗行の籬にそふや萩草　同

草哉菊も六根の清や萩草

おきてみるもまたらぬ萩草　利政

緒ひらをせんくりのさか萩草　秋田 正勝

術子菊は萬歳楽の萩か郁　卜野

家のらわき射の黒金風萩草　信田 政信

菊箱の蒔絵や秋の萩草　大坂 今成

いけ花やその数列さき萩草　森 繁枝

八重くの萩草や十六里　室和

寺の地に植へき菊や大繁昌　林麻

八重や高麗菊に花見ん酒　長川　梅政

蝶も手をまはし高麗菊の枝　加谷　貞利

ふかくに艶なる菊や楊貴妃　杉村　素政

なかや蝶の夢に菊つくし金菊　大津　如貞

金菊の花乃光りや星備　梅山　保友

菊にあそぶ物蝶やいとこ金虫　大津　如貞

霧にいけよ星いまいまの菊　本傳先生文　素鳴

何かわと見ん程くの菊に花の光　桃山　保友

程くの文字に星をや菊に花　荒木　蒼留

候菊に花壇は星に株分　桃山　保友

枝くは孫彦利りの菊の花　荒木　宵城

一本に野候菊やすいろ星　下堂　俵貞

めでの蝶の寝酒や菊に花の露　素鶴

待候やそくはけるる菊に酒　同

去年は桃子に蝶の園の菊　水沢　之當

花摘に浮かるや菊の酒乃糟　未白　道光

流れ舟よ菊へ〱かと　半捌　宮次

岸へよけ入ふ菊も花の精　大坂　保貞

菊禅寺へ草麻人の知りて

さかりけかと異しも菊也菊禅寺　長兵

爰の後ハ葉草の歌の菊の花　同

百年ハかつてふ菊よ菊は露　〻

世乃代ふ出てふのまふや筆の潮　〻

八重菊の名もや丸潮　丹本のさ草　〻

一去りしる百歳の菊草

樹の海外のたゝりひと

みゆく　〻

佐殺ともちも茎より金菊　〻

瀬の朋を方よりわきく此窗　〻

草

異菊花く山さひねこ来

風しえて痛むハ草此もこ庭

いのちや桐横をつ秘とさぬ
山賊にほうそと手のあれそる
惜別して宝芥の子氏葉介
芥魁ありつましとや絹のまゝ
宮城のさって縁あふ芥冠
又たすかくはあつけの子形
捻くちや生ふはしお芥梓
子の行まきあつへ白鳥のいり世

中術 長脊
後楽

けの子比をいれし腹も夜盛
いのちの兼人袋やさぬあるよ
他り乳にすっかを芥比子遠人
遊む芥も咎ありて川危
何ふ子お抱子あつ芥魁
芥比子のいとも比流のやいりら
燃は組子ふやより観芥魁
芥の露やいりの子をあ流ふたし

伊勢村 次良
清水 常象
太田 宣時
樋口 道知
池上 東年
智恵 西酒
伊丹 九室

いききたなりの手より来燕の巣　堺　忠勝

かりかねやすはまの海わたし舟人　落合　貞利

むかふとハ誰かそらうつり舟生　長頼

鶺鴒

さし入鶺鴒の瀬くふるともちくる縄

こしのかよふ声かきしみさら鶺鴒の鶺鴒　式　中嶋　貞宣

さし入ひわ雨と涼しき流やあらし元流　佐野　忠久

鶺鴒とくりきる咲や鼻鏡　堺　安之

萬年や桃やあつより涼しすまの酒

さし鶺鴒のことはりのえんや刹那絶　長頼

秋時雨

霊けふの林の時雨やつかなき　桜井　貞房

降花の袖ともやと海の袖時雨　体隊　正勝

時雨しれ木の葉と深まれやとさし山　尼崎　宗勝

大師塔のいろそ新りとも時雨

紅葉

時雨にてハかう染紅葉や朱傘
さしや山の錦なれとも朱實后
山にも紅粉をさしたる紅葉哉
山の腰乃枝珊瑚樹のまハり紅葉
夕日にそむ紅葉や錦ぬはれん
出しひ紅葉ちる木の葉やちる紅葉
錦の袴紅の紅葉や二百海
赤くさえん山の人はりま界

高雄にて
紅葉哉ハ去年ちけり高雄山
吹ちる錦紅葉や風の神かくし
りうらう三笠の山や朱傘
時雨てはしても深染なれきはさる
山ふしのぬさの紅葉やそらる深
夕日も光源氏の紅葉の賀
目ゆ付くみる紅葉ミや葉ゆ見ん

紅葉ハあれちりくひの須弥山
在々のまつり氏子や村紅葉
来とも来ぬるとも露にすみけり
りみちもハ山のしらに赤紅熊
林間の酒乃さかなやむら紅葉

聖護院の森にて

紅葉せぬ森や七宝大悲心
見る此森や赤西志くさりきせ

肖 季吟
重徳

所望の紅葉ハ緋衣也業摩哉　政信
赤漆ハ紅葉衣の名りん弥　宗好
紅葉せぬさきハ青地の錦哉　一笑
細布も織の紅葉の錦塚　之恵
紅葉せぬも八重あるハ二字木哉　喜清
紅葉ちりぬる色の錦と清水哉　幸以
紅葉する柿の梢の錦画や　貞房
錦木や文字出けるこハ紅葉　信安

庭境も今に出る里林の山　井上　廣政

南もたうか錦木を染く紅葉山　井上　正知

深山ちるはやまのもやけかな　松山家内　玄利

露やまさる丸きおくかいそ紅葉　吉田　波助

山ちりてこそちり見えそかまへぬ紅葉　伊丹　儿堂

木々の葉や赤く染なりの南の紅葉　倉永　孝庸

樹ちるさきみちれまゆ朱すり紅葉　同

嘴朱くつゝみ徑若の紅葉哉　一言　枝埜　宗保

奥山の紅葉此名やちる雨渓　堪木　俊次

庵原のりみちの中此松一本　同

紫瀬水是はかそめや男嵩　廣瀬　宣房

とゝまるや赤く紅葉す空天　大森　恭和

紅葉してちるや道芥の高雄山　中川　宗室

露結ぶ紅葉や大路たつ田山　因樹寺　加友

風ふかば雛とたつ田の紅葉哉　薫木　青島

額字ちりて紅葉も土ふくや志ての的

もみぢは紅の舌の龍田河　定圭

蔵酒も先鬼をせすよ紅葉精　同 路圭

けさ地や身丸さんでんまきら精　也柔

東福寺通天のもみぢを
仰ぎて

鳥鵲や通天橋のしら紅葉　仟和 良保

通天への紅ら紅葉丸ちうこみ　徳井 清之

林のちるまれいは森の血しかみ　以舟

すゝきいつまてかゝや紅葉　新 一鳥

紅葉ちる風や鉄炮つちほし　同 古城

手折ぬは又あらえぬの木の葉かな　長頭丸

あらえふはちらぬきさら燒火かな　月

此あれさい黄獺獺の林かな　〃

維門のの何りてみてこい紅葉　〃

なまりくさきちるめく

花四ありちやさしきのこい紅葉　〃

児の顔もかくあかし紅葉狩

赤くされたるにすきもみぢや猿の耳

龍田姫さかりやこゑし木下紅葉

もみぢ見や寅卯に思ひそむる山

山やまりしきもえくる入日影

錦きるハまつりの山のもみぢ哉

林の錦きるやもえの武庫の山

花乃賞ハ身はしを出世紅葉の賞

もみぢの袋かくや猿の尻果　蘿浅

名木紅葉

たかふ名に深さハ楢のもみぢ哉

栗の木ハもみぢせぬなまもみぢ哉

時雨もや紅葉せりかれ河の木

もみぢせぬ乃ハ青深やめるての木

紅もみぢをさとるや人のたもと花

風生いさゝ赤手をすらハ楓哉

紅葉ちるに句をよむとハゝその木

見事やと人をまたせの山路かな

家とちるハ本両山風に楓かな

名付やいちりの葉ハ紅ちるを

めけハせく紅葉の数に涌かな

紫と紅の名にそしもや拂ふ

名こそきいふら梅深の紅葉かな

すれは赤きたり梅の紅葉かな

火の色に紅葉志ハ行まのさくら哉

下紅葉いろもかまハぬ身なれ哉

秋風とふせけ錦梅の色紅梅

梅志んや錦さての梅紅葉かな

見事やとゆひまりかさ紅葉

秋に赤くちるや水火のなかて

名付や草木国志川ふく

くれなゐ露のみちれ甚やおもゐ

若　貞利

右田　安當

楢平　勝重

平林　英時

大坂　以正

住田　政信

利政

種榮

ね葉もて又花をぬらさるゝ哉　長頭丸

一条小松桜にて

種ゝ勝をきそふ色に梅紅葉　同

熱柳く清き上戸の杯や柳紅葉　同

きこしめすも下戸のくめし柳紅葉　同

よき柿と杯をもめくらし柿哉

梅の木やさえ渡る鶯の紅葉

山姫の紅粉付ゆひかへて紅葉

冬も見のこさるゝや奈良の都の

冬紅葉

並も木も枯ちる也冬紅葉哉

ねぬ夜はさめきさの冬紅葉哉

ちりぬるは百千万也いろも哉

毒房は石の世にて冬紅葉哉

草楊もまつ深かくいろも哉

楽の木は字八字也いろは哉

村時雨てかさゝきのいろは
なかはよめの如く山は伊呂波
いろも花やいさうき世ハかりかさ
見ぬあねハ一つゝ千のいろは
手習とはいちん老木の文字は
山をは本此文字の机かな
あさ稲この手のつり此伊呂波
いろもかさねる手風をや名残姉

淺草 常年

手を習ふ雨そ
文字数庭をまなやさ言葉

佐 元与

けふとていへと白きいろはも

石若 只利

縁もまいは山やいろはのへ此字かなり

林 英竹

やまけむえて文字みさうハやめけり

肖井 宣安

大和仮名のいろもまやさん龍田山

大坂 清友

之ろ経一見の時まつ坂そ
河字も如く文字や宇八分まて

溪吉 安明

知方寺にて

知方寺ハ十万信の紅葉かな　岩　吉附

水に縁ある紅葉も此あたり　廣瀬　萬洪

かちの木の紅葉やそれも明すくる　尚静

硯につくる蔦の紅葉や和紙やり　東若　貞利

蔦くるそ見そ紅葉の宮殿やり　古田　宗府

ちるも切る一字〱の紅葉かな　廣瀬　竹英

いろもみてわさき鳥居まで也　神谷　巻清

おもてより渕瀬の水の紅葉かな　長錦

紅葉散く草村の世にかり嫁　同

花のあとすき微なみやさん紅葉哉　〻

蘿

神垣の練の楢葉の蔦ほう

蘿深く松乃風さへ朱々哉

朱鞘のかや朴の木風にふ蘿かな

清き紅葉硯にそて朱やきさ程

手に揚て烟出綿やけく鳶ちと
若せも三雪まてちるや鳶ゝ
俤いとゝ小春烟やつれけら
葛衣ホ二往ハ雑衆もや君御
や孫まて浮さひしけ家ハんて

御弟 未成
河坊 宣正
前谷 貞利

紅葉辭

風よ波ちるハ花この紅葉辭
見んあきに夕日の色さす紅葉辭

蜀江の錦とミるやもみち辭
秋色ましてくれなゐのあたみちる字
山木もさてる花がりに花辭
笠も本来のかるたゝへの紅葉辭
江路無来小雨もるしけ
此度ハねさに花あれよりもみち辭
ぎ庭ちらの錦の紅葉かな
玉網やちらぬ紅葉辭

来陽

水の面にてるや常山紅葉鮒　西岡　友意

構ふ落てや所々をみち鮒　友吉　貝利

よかの海へちるハ紅葉や近江鮒　西井　雅政

湖やしけし葉本のりみち鮒　大坂　久弥

狩田そてりともみちとそ

よこ浜を紅葉の橋や狩田の鮒　中村　好柏

漁よみ云一度に見るや花紅葉鮒　宅守

水けつれそたくもみち鮒　竹内　宣保

錦の四ツに紅葉や鮒ちまけ浪　中村　利次

膾やも魚も行こと紅葉鮒　新川　玄樞

ふくるに秋のいろや紅葉鮒　信田　政信

濁酒の酔に錦めぐりみち鮒　大蔵　元来

林間にたくさん炉を紅葉鮒　罌　宗俗

龍田河にちりしハ今その紅葉鮒　長琢

橋鯛にこハまさりけり紅葉鮒　〃

こなたよりあちこえ来て紅葉鮒　〃

木実

菓子入出して、お菓子にはよき棗

さくら種桃や正なしの枝

追若中

あるいは梨子はありのみ世アリノミ

実ならや種ありてなる棶の実

実よりをいはんまゝりてせよ棗の木

胡桃しぬ菓子を出せよとみの臍

赤さゝげ漆子を逸松柏種

山椒もくわゐのいろ榛

木の実まて実種なり花梨窓

よしなりはよきせんさのに杞

胡桃のありや種此冬木のに

男を流くゆかしの花や知ら乃人

親中をもれきらへよい記

まし

信

寿　政信

盛右

正生

散し花の孫弐をとるこの頃　尼崎　貞好

一向宗ちるあれ柳葉経
もして多く宝のりを
まいは

敷めいはちつ山男も亜量樹林　引　住吉村　松吹

枝葉栄へよくちるやこれこゝの秋　尼崎　貞利

月ちまも出ん本氏宗見るよる猿子　引　江戸　可笑

ちんりとよふる献しや猿の智恵　若松　宝葉

熊野山にて遊吟

撒猿のなくやあふはもんの目　坊　由當

熊野古座にありしは
嘩のこと

ありしはいかにも気ありしけ　引　友　吉村

風は帳になりしはけるまりの　尼崎　重親

ありし宮の人重苑も黙純　引　なる　紀州坂本住　明石嵩

本の國んにありをよろこぶ雅の声　篠山　黄林

落ぬるやさるの世ゝ志らすの　三益
本尊の前ハ松梅燈籠かな　英时
挿家して梨もし松梅とも
されるゝか
一抱りのしをらしくちや菊木　ふ梅
縦横の枝や松梅の障子骨　後彦
障子も一はくはしらや松梅　室宗
枡らハわつまゝや長胡桃　久蘇

拾ひハしん草の紅や雑る　人勇
南天の實樹といちんみの水　則宣
誰もけふとすうハあるさゆ柊　政信
寒梅ところいめるハも蛙　貞長
九年母の切かきさやみんな付　重之
ひさしふりくありたヽハ翁　長頸托
おさのミハいちんせんるさ川　同
栗

うるみ付く法し栗やみなみき

山路なるゝは栗やゆくこゝろ

枝なからもから栗とあるとき　得水

口栗とあるやあしたちりかゝる雨

栗ちるやあるよいりきとし　浮水

柳そろへといはいはむくりかな　梅水

いか栗とるいんたにはまり　江水

いまそつかりをまつちや猿の智恵

楳山　保友

合巾

八本　吉治

栗ひろひいやふ翁の翁のさき
名根の山ニ子山を越

時

在田　政信

笠根八重ひろひ中や二子山

同

実の入てく栗虫のやとる二字

古石　貞利

古傍物くもあへるく栗筆

一原　友我

追善

栗落してなかし郷そうすゝ

江浜村　次良

栗と胡桃と同篇なるとも

みく

大栗にそへてやてるての姫くるみ　唐啓　宗房

おちぬ身ハくりあくしの栗丹　京　梅盛

切り出るき栗柳ハよきみなり丹　長頼

うち落てふりつ栗ハ丹つたふ　同

営てもて云ひあんともたんも栗　同

丹波栗の粉の餅流にやっての京　同

柳

太山櫻へのぼるさへやさしさん柳

石とやかなれと甚氏の好む杖

しやきれさりとし

吉野なみまつかさいハ朱筆に

浮水柳まくらの花はけはいしまる

只一樹ふつや他生のえんさ柳

さくら流し捨ぬるハ誰のあれわ柳

春日奥山人　良甚

星柳の糸操髪しやあまい蓮　　定宥　露真

わまきさ味三川の信ゟ柳の糸　　泉州　友益

信濃柳は出迎人のうへ汁哉　　一　鞍作　三幀

出来地やうそ流るゝ末緒柳　　邦達　雅政

蓬萊落ふ二夜柳此柳やう從客

清和柳はおもりとゆらん柳哉　　周防　未鈍

御所柳の苔やさぬれ朱塗懐　　友三

ちる柳の葉の外ちまちや再座柳　　南田　友直

まわゆ数字の百生の縁座柳　　喜　盛省

猿の魔ふさやあやき弁座柳　　南田　宗古

客人ふ流しれ柳や八王子　　京石　負利

柳流れうんて重もあさまのち王子　　平井　易延

与まりわうちてやあうふゆやお柳　　一　信乾　楽紙

そのれうらおわのつもやさらん柳　　未鈍

菊子にいとうさ等柳や岸の上　　同

草柳ゟ入るる宝や　硯籍　　上重　徳貞

十七上

花ありやなしや此大風に新柳　良弘

縛しめる柳はさへときこみ　元午

窓柳にありても蒸さに流れくや　東松

庭鏡やまてハのし汲の柳の　易庭

影の素に似合ふきやあすかり　円利

二ありれ柳の美しやあまかり　一栄

人まちふくとある猫の柳かな　長鶏比

人形の色かりやさわりさきん　同

蝶柳長生寺して庭と
さとんとせしにえぬる
本ほそ出して見に絵
句せすハ納めしと落
けさい

かさらけこくのそ老いそつてかと　同

又道売にいきみの南
楽為金銭借へ帰りける

日本照権現の光の梢
として末孫も出されたまいし
御前様ハ権現さまのゝの光
御身の代々光の御ゆかりに
て有りゆへ御前様をふ
出ハ有りとこそ　　月
なし遁しかさ山をしも雲の
雲の中守ハ流るゝ桜のあまし
　　　　　　　　　　　　月之

出羽清水の光より
高桜乃流れ河まハ湯へ
入ともありけれハ
ひえ野とみえ香りも
めすかし桜に露ゝや
　　　　　　　　　月
　　　　　　　　　月
　秋寒
観しすとしてなれハよさしに
ちるさくらやまきかき風の種
　　　　　　　　　森　幸忠
　　　　　　　　　岩　政殉

炭さしさや蛤屋いかゝくわきさし　　定昌

雛祭

並九ちらき人の中やよ出る女さひ

有ちらく酒なちらの花ちれ蘭菊酒

かんなんの流るゝ水もちるや雪くさけ

ちまひもの中ゆるくや桃の風の音

さたへいわらふてもはしまひえんこ

同し風や山かくちらふ花の嵐　　重勝

雛川の塩や雛流るゝちらの浜　　大坂　海城

雛流のさらおしまひの端のちらし　　信田　政信

江戸ゆらまくみくて花ぬし

ちまきの露や花火の石ゆゑ瑞　　手柄　良頂

住吉や白帆や松の海　　念波

百日姫もけさ風のやさしや　　独井　清之

花きたたるまの鳥の松の風　　出発

中ちらふけり雛の花見　　同

石清水も宝殿も八幡なるか
宝殿にも年のうち御遷
生石清水宮にも此の御
年又御見るも八月なる
宝殿の御山居ハ小倉山
石清乃夕紅葉も豊前也
おもしろく又所よ信楽
清水それハ清水の御再

同

遷かくれなき世上
に知られ流し御ふ遊
あれハ今般句に記さハ
し侍る

林の中ふ翹金銀に御んすゝ　同
蓄林
有様家様ハ林のさそ葉なか
さりし　さいあきれ果るなる　長頭丸